



## ○令和2年度の学校教育目標について

新型コロナウイルスの蔓延による緊急事態宣言が出されてから1か月余りとなりました。神奈川県内の感染者数も横ばい状態であり、学校再開にはもう少し時間が必要だと思われます。学校では、それぞれの職員が生徒たちの為に課題を作成したり、動画を編集して配信したりと、1日も早い学校再開を願い、今できることを行うとともに、学校再開後の授業開始などに向けての準備も進めています。

今年度、二宮中学校の学校教育目標を次のように設定いたしました。理由として、昨年度末に行った保護者・生徒アンケートにおいて、学校教育目標を知っている又は意識しているといった割合がとても低かったことが挙げられます。学校教育目標は、その学校が目指す方向を指し示すものとして重要なものだと考えます。今年度新たに設定した学校教育目標を生徒や保護者の皆様、そして地域の方々にも広く知っていただき、二宮中学校の教育のあり方について意識して頂けることを願っています。

◎令和2年度 二宮町立二宮中学校 学校教育目標

**主体的に学ぶ意欲を持ち**

**人と積極的に関わり**

**公平・公正な心で行動できる人**

1つ目の「主体的に学ぶ意欲を持ち」という文言は、令和3年度より完全実施となる新学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」の実現を念頭に置いたものです。

2つ目の「人と積極的に関わり」は、生徒同士、生徒と教師だけでなく、保護者や地域の方々も含め人々と積極的に関わることで、幅広い人間性を養って欲しいとの願いを込めています。

3つ目の「公平・公正な心で行動できる人」とは、国際化の進展などにより、世界中の多種多様な人々との交流が予想される未来において、どのような立場でも「公平・公正」な態度で行動できる人を目指しています。さらに、バリアフリー社会の中で、インクルーシブ教育が充実される中、いじめや差別のない社会を志向するためにも、この目標は重要であると考えています。

今年度の学校教育目標で意識した点は、二宮中学校に於いて育てたい生徒像を意識しつつ、わかりやすく覚えやすいものとするのでした。そこで、各目標の最初の文字を繋げて「主人公」としました。これは、学校の主役は生徒であり、授業や学級活動、生徒会活動、部活動などすべてにおいて「主人公」として考え、行動してほしいとの願いを込めています。

「二宮中学校の学校教育目標は何ですか？」と聞かれた時に、自信を持って「主人公です。」と答えられるようにこの目標が生徒の皆さんや保護者・地域の方々に親しまれることを願っています。

## ○寺子屋オンラインの取り組み

新型コロナウイルスによる一斉臨時休業を受け、全国各地で生徒の学習保証に関わる様々な取り組みが行われています。その多くは、インターネットなどを使用した、動画配信やオンライン授業です。文部科学省はタブレットを全国の全ての生徒に1人1台整備するとした「ギガスクール構想」を前倒しして今回の事態に対応していこうとしています。そのような動きの中で、学校運営協議会の会長である藤原直彦PTA会長が「寺子屋オンライン」という取り組みを行い、動画配信を行っています。学校や学習塾などが動画配信をする例は全国でも珍しくありませんが、地域の方々による学習コンテンツの発信は例がないと思います。

寺子屋とは中世の寺院で、子どもたちに学問を教えたところから発生し、江戸時代には庶民の教育施設として「読み・書き・そろばん」を教えた教育施設です。村役人や僧侶、町人などが人として一人前になるための実学を教え、最盛期には全国に150,00か所ほどもありました。

学校とは異なる教育施設としての「寺子屋」の今後の活動に期待したいと思います。



